

今週の話題：

<特定の顧みられない熱帯病（NTDs）に対する統合的な予防化学療法（PC）の展開と拡大>

* 公衆衛生戦略としての予防化学療法：

予防化学療法（PC）は、単一または併用による安全な薬剤の投与による公衆衛生戦略であり、特定の顧みられない熱帯病（NTDs）に対する公衆衛生上のツールとしても認められている。

- i) 人口に基づいた診断
- ii) 人口に基づいた治療
- iii) 定期的な実施

PCは、公衆衛生上の戦略として、慢性疾患や障害のマネジメント、媒介動物や中間宿主のコントロール、清潔な水と衛生設備の供給というような介入と共に、多くのNTDs（すなわちリンパ系フィラリア症やオンコセルカ症、土壌伝播蠕虫症、住血吸虫症、失明性トラコーマ）を制御または掃滅するための重要な公衆衛生戦略の一つとして、現在WHOにより推奨されている。

* PC戦略の統合的な実施：

2012年、WHOは*Accelerating work to overcome the global impact of neglected tropical disease: a roadmap for implementation*を発行した。特定疾患の掃滅と制御を2020年までに達成するためには、世界中でPCの介入拡大が最優先課題であることが、このNTDロードマップにより再確認された。

Table 1はPCの対象となる疾患の重要な実状を示している。これらの疾患は、貧困が拡がり、安全な水の供給や衛生設備が欠如し、媒介動物が蔓延する発展途上の熱帯・亜熱帯の国では、同じ環境下で、同じ集団に発症する。特定の病気において推奨されるいくつかの駆虫薬は、広域薬効を持ち、複数の病気に効果がある。

複数の疾患に対してPCを必要とする国や地域では、PC戦略の統合的かつ組織的な実施により、薬剤耐性のリスクを軽減させつつ、費用対効果、事業実施の便宜、罹患者の受容性、介入の補助的かつ相乗効果、知名度を介する政府の関心を好転させることが期待できる。総合的な目標は、プログラムの効率を最大限に向上させることである（図1）。したがって、この介入は、あらゆる関連疾患においてPCの世界的拡大を加速させる戦略的アプローチとして、WHOにより推進される。

* PC実施の統一方法：

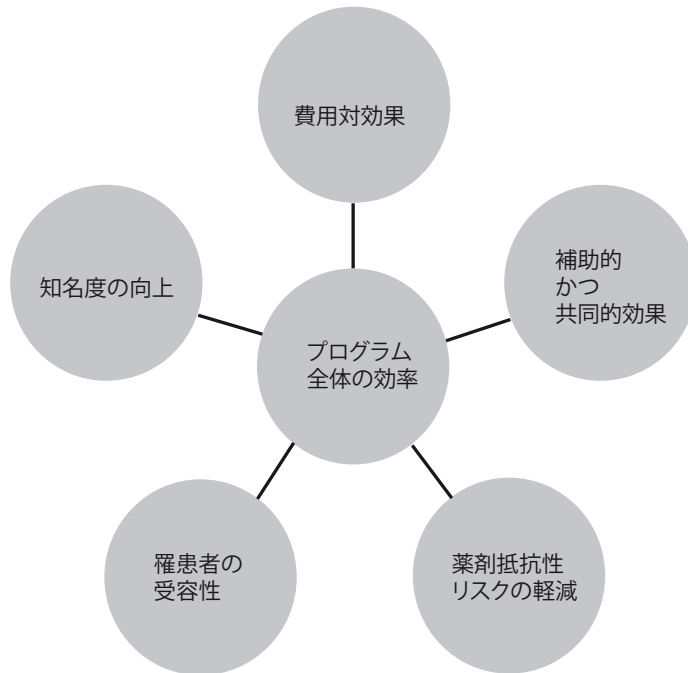
PC介入の展開には、情宣活動、社会的流動化、ヘルスワーカーのトレーニング、治療率のモニタリング、介入結果の評価が含まれる。複数ある疾患プログラムを通して、そのような活動の統合かつ連動した実施は、確立されたプログラムが既存能力および人的、物的基盤の上に建つことにより、相補的な活動を促進する機会になると考えられる。

同じ地域で複数の疾患に対してPCの展開が必要とされる場合、それぞれの計画された活動は、複数の疾患特有のプログラム間で比較できる。また、費用対効果、相互作用効果、政治的利点、事業実施の便宜、罹患者の受容性と安全性といったような決定基準に基づいて、最適な介入機会を選択できる。この統合かつ連動したプランニングプロセスでは、さまざまな疾患に対するPC介入の際、推奨される方法（薬剤のタイプ、治療方針、対象年齢集団など）の相違点と共通点を理解すること、複数疾患でのPCの同時実施による効率の向上を保証することが、必須である。

さらに、疾患疫学、社会経済的および環境上要素、既存の運用状況、資源、能力は、国や地域、さらにはコミュニティによっても異なるため、統合的プランニングの政策決定プロセスは、それぞれの地域の状況に従うべきであり、各国プログラムのレベルを考慮すべきである。

表1：予防化学療法（PC）の対象とされている顧みられない熱帯病（WER参照）

図 1：統合・調整された PC 戦略実施の特性



* 統合的 PC 実施を展開、拡大させる方法：

統合的な PC の展開を成功させるためのカギは、政府の関与、協力、エビデンスに基づいた政策決定といった要素に委ねられている。これらの要素を達成するためには、まず第一歩として、疾患特有のプログラムと他の関係者やパートナーとを調整する活動の中心地を設けなければならない。統合的な PC の実現に向けた国家戦略的行動プランの開発もまた深い関与を示す。すべての関連疾患プログラム責任者と国内のパートナー、その他の関係者を含む国の専門調査団（または運営委員会）や定例会議の設置は、プランニングの調整と協力および資産の統一、プログラムのモニタリングを促進するために役立つ。

PC 介入のモニタリングと評価から得られるエビデンスに基づいて、統合機会についての適切な決定を下すために、統合的なワークプランニングの会議は 1 年ごとに再召集するべきである。また、1 年間のワークプランニングプロセスによって、統合的 PC 介入の際の効果的なマネジメントを補強しなければならず、全国界規模 にまで拡大を強化させなければならない。

表 2：統合に関連するリンパ系フィラリア症、オンコセルカ症、土壌伝播蠕虫症、住血吸虫症、失明性トラコーマに対する薬剤の相違点と共通点（WER 参照）

* 統合的 PC 実施をサポートするツール：

WHO は、以下に示した一連のプログラムツールを加盟国およびパートナーと協力して開発してきた。これらのツールを用いることで、統合的なプランニングとコストイングの容易化、統合的な薬剤の要請、年間レポートの単純化および強化、といったことが期待できる。

- 年間ワークプラン

各国プログラムで実施される重要な活動をまとめるためにデザインされたテンプレートである。このテンプレートにより、実施のタイムラインを示し、財政的および技術的資源のギャップを呈示することができる。

このワークプランにより WHO は各国のプログラムの進行をモニタリングすることができ、必要な場合、サポート提供を調整することができる。複数の疾患特有のプログラムの中で統合的なワークプランを導くためには Tool for Integrated Planning and Costing (TIPAC) を利用することも可能

- 年間ワークプラン

各国プログラムで実施される重要な活動をまとめるためにデザインされたテンプレートである。このテンプレートにより、実施のタイムラインを示し、財政的および技術的資源のギャップを呈示することができる。

このワークプランにより WHO は各国のプログラムの進行をモニタリングすることができ、必要な場合、サポート提供を調整することができる。複数の疾患特有のプログラムの中で統合的なワークプランを導くためには Tool for Integrated Planning and Costing (TIPAC) を利用することも可能である。

- PC 薬選択における共通の要請

複数の疾患特有プログラムを通して、薬剤の要請を調整できるようにデザインされたフォームである。

- 合同のレポートフォーム

標準化されたフォーマットで治療データを報告することができるようにデザインされたものである。

これらのツールは、各国プログラム内で経営能力を構築し、国内のすべての関係者と共に PC の統合および調整を促進するために、利用すべきである。

* 結論 :

PC の実施において、資源の最適な使用とマネジメントを進めるためには、合理的な政策決定プロセスが必要である。複数の疾患特有プログラムの中で、PC のプランニング、実施、マネジメントにおける統合的アプローチを行うことの本質は、プログラム全体の効率を向上させることである。この統合的アプローチの採用により、すべての感染流行国で PC 介入の拡大促進に貢献することが期待できる。それゆえに、リンパ系フィラリア症、オンコセルカ症、土壌伝播蠕虫症、住血吸虫症、失明性トラコーマに関する世界的な掃滅または制御の到達目標は定められた。WHO は、この統合的な PC のアプローチを促進させるように加盟国に促している。なぜなら、それぞれのプログラムの活動を調和させ、それらから利益を得るためである。そして、全世界で公衆衛生全体の影響を強化するためである。同様に、寄贈者、パートナー、国際的組織、民間セクターは、これらの疾患を掃滅・制御するために、統合的な PC のアプローチの展開、拡大を進める努力に努め、加盟国をサポートするよう奨励されている。

<急性弛緩性麻痺 (AFP) の動向とポリオの罹患率、2012 年 (WHO 本部入手データ、2013 年 4 月 2 日現在)
> (WER 参照)

(片山南詩、堀裕一、白川利朗)